

登録コード	HM123100	開講年度	2026					
授業題目	眼病理学特論					担当教員	平野 隆雄 他	
英文授業名	Ocular Physiology					副担当	村田 敏規	
単位数	2	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	2	
講義室				授業形態	講義	備考		
信大コンピテンシー	非該当							
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素					(授業の達成目標)		
	2026HM医学分野加, 2025HM医学分野加, 2024HM医学分野加, 2023HM医学分野加							
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能					眼球は23mmの小さな球体で、物を見るための感覚器である。しかも、球体の中は空洞で、本当に体内のすべての組織の中でしめる割合は小さい。そんな中でも、腫瘍は発生するし、種々の疾患の病態理解に、病理学的知識は必要である。一般病理では学べない眼科病理を学び、医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能を身につけることを目標とする。		
(2)詳細 /Detailed information	眼球は直径23mm前後と小さなものですが、「眼は小宇宙」と言われるほど神秘的であり、その機能は生理学的にも複雑に、そして巧妙に制御されています。そして、まだわからないことも多くあります。この小さな臓器の奥深さを、そして「見える」ということのありがたさと重要性を学ぶと同時に、眼疾患に罹患した患者さんをどのように診断し、治療していくかを理解してほしいと思います。 まずhistology：眼球の正常の構造と、何故ものが見えるのかの仕組みを勉強します。							
(3)授業の概要 /Overview of course	・最低限の基本的事項を暗記することは必要ですが、片っ端から丸暗記するのではなく、病態を理解しながら学ぶよう心がけてください。診療の現場では、教科書通りに診断・治療できる症例ばかりではなく、難症例もたくさんあります。難症例に対しては、暗記のみの知識で診断治療にあたることは不可能です。病態を正しく理解していることが、正しい診断・治療に結びつく第一歩となります。 ・自ら学び、自ら考える習慣をつけてほしいので、手取り足取りの指導はしません。講義やテキストを参考にして、自らの眼科学を作り上げてください。わからないところがあれば、どんどん質問してください。							
(4)授業計画 /Course plan	眼球と付属器の構造と機能を説明できる （第1～5回） 診断と眼科病理検査の基本を説明できる （第6～7回） 眼・視覚系に関する主要症候を説明できる（第8～9回） 眼科領域の腫瘍性疾患を説明できる。 （第10～12回） 眼科と関連するその他（視覚障害以外）の症候を説明できる （第13～14回） 眼・視覚系の良性（非腫瘍性）疾患を説明できる （第15回）							
(5)成績評価の方法・基準 /Grading/evaluation method/evaluation criteria	成績評価の方法試験の点数で評価する。 成績評価の基準総得点の60％以上を合格とする。 内訳は 90 - 100点：卓越している 80 - 89点：かなり上にある 70 - 79点：やや上にある 60 - 69点：合格水準にある とする							
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep work/Textbook(s)/Reference work(s)	講義内容が全体の眼科学の中でどのような位置づけであるかを、下記の教科書を用いて、各自把握することを求める ・標準眼科学（医学書院） ・現代の眼科学（金原出版） ・イラスト眼科（文光堂） ・病気がみえる 眼科（メディックメディア） 信州大学眼科から、黒川、村田が編集に参加している ・Kanski's Clinical Ophthalmology (Elsevier)							
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	平日15：00 - 18：00 眼科医局事務まで問い合わせて下さい。連絡先を教えてください。授業参加者に限り、授業担当者が連絡を取ります。							
(8)授業の形式 /Course format	原則として、powerpointを使った、眼科研究棟での講義形式とする。出張中で集合できない場合は、webを使ったネット形式の講義の形をとる							